

2023年 6月22日

京成電鉄株式会社

安全・安心の強化、社会課題の対処

ソーシャルローンによる資金調達を行います

昨年に引き続き、サステナブルファイナンスを実施

京成電鉄(本社:千葉県市川市、社長:小林 敏也)では、サステナビリティ経営のさらなる推進に向け、安全・安心の強化及び社会課題の対処に資する事業資金を、当社初の「ソーシャルローン」で調達します。

ソーシャルローンとは、社会課題の対処や SDGs 達成貢献を目指す取り組み(ソーシャルプロジェクト)に資金用途が限定された融資のことです。資金の追跡管理や融資実行後のレポートングを通じ、透明性が確保される等の特徴を有しています。

サステナブルファイナンスとしては、昨年、グリーンローンによる資金調達を行いました。今年を対象をソーシャルプロジェクトとして実施します。

当社では、お客様に安全・安心にご利用いただけるよう、各種鉄道設備の長期的な更新・改修工事を、計画的に実施しております。また、京成グループでは、長期経営計画「Dプラン」の重点施策に「環境・社会に関する情報開示の充実」を掲げており、本件取り組みにより、社会課題の対処及び SDGs の達成に繋がるものと考えております。

本件の概要は、以下の通りです。

1. 借入概要

ローン種別	ソーシャルローン(シンジケーション方式)
契約締結日	2023年6月22日
アレンジャー/エージェント	みずほ銀行
借入金額	100億円
参加金融機関 (50音順)	阿波銀行, 沖縄銀行, 常陽銀行, 大光銀行, 大東銀行, 富山第一銀行, 名古屋銀行, 南都銀行, 東日本銀行, 北洋銀行, みなと銀行, 武蔵野銀行, もみじ銀行, 山梨中央銀行, りそな銀行 など 計 18 社

※「サステナブルファイナンス・フレームワーク」及び(株)格付投資情報センター(R&I)より取得したセカンドオピニオンの詳細については、当社ウェブサイトからご確認ください。

URL: <https://www.keisei.co.jp/keisei/ir/csr/finance.html>

2. 調達資金の使途

本ソーシャルローンで調達した資金は、全額を以下のプロジェクトに充当する予定です。

① 駅舎リニューアル

駅の利便性・安全性の向上のため、駅舎リニューアル工事を推進しています。駅は地域の特性を生かしたデザインとし、駅照明のLED化にも取り組んでおります。



▲千葉中央駅



▲京成大久保駅



② 駅舎耐震補強

大規模地震への対策として、市川真間駅等の駅舎や、ホーム上家の耐震補強工事を実施し、地震に対する安全性の向上に努めております。



▲耐震補強工事(東中山駅)

③ 列車無線デジタル SR 化

列車無線(※)について、従前はアナログ方式(誘導無線式)を使用しておりましたが、デジタル方式の列車無線へ完全移行を行ったことで、より高品質な通話と文字情報での情報伝達が可能となりました。異常時対応等のさらなる迅速化を図ります。



▲車上設備 アンテナ

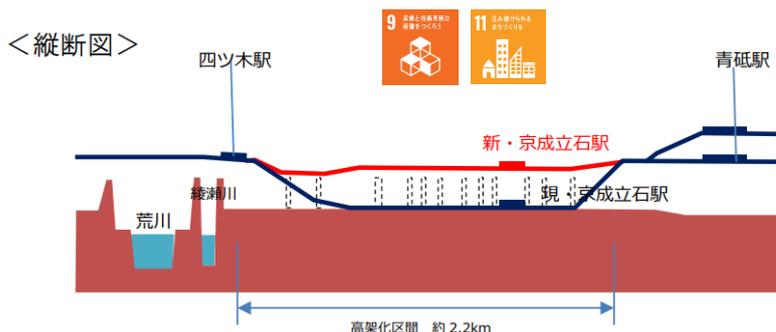
※列車無線とは、運行を管理している運輸指令と乗務員との間の情報伝達のほか、事故・災害発生時等に異常を知らせる信号を発報し、周囲の列車を停止させ、事故の拡大を防ぐ役割をもつ重要な保安設備です。



▲地上基地局 アンテナ

④ 葛飾区内連続立体交差化

東京都、葛飾区と連携して、押上線の連続立体交差事業を推進しています。この事業が完了すると、沿線にある11カ所の踏切が廃止され、道路・鉄道それぞれの安全性が向上するほか、踏切による交通渋滞が解消します。これまで鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることができ、魅力あるまちづくりが推進されます。



以上